

第3回新たなグリーンホールの整備に向けた専門家検討会議 議事録

1 日時 令和7年10月8日（水）午後6時から

2 場所 文化会館たづくり12階 大会議場

3 出席者

（1）委員 9人

（2）事務局 生活文化スポーツ部 5人

（3）事務局 行政経営部 2人

○会長

皆様、こんばんは。ただいまから第3回新たなグリーンホールの整備に向けた専門家検討会議を開催いたします。本日はお忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

それでは、早速ですが、議題に入る前に事務局より本日の会議の出席状況と傍聴などについて報告をお願いいたします。

○事務局

本日は、委員総数10名のうち9名の方が出席予定であります。本日はA委員より御欠席の御連絡をいただいております。また、B委員につきましては、少し遅くなるといった御連絡が入っております。C委員におかれましては、本日、オンラインで御参加いただいております。C委員、改めてよろしくお願ひします。

○C委員

よろしくお願ひいたします。

○事務局

続きまして、傍聴と議事録についてです。市は、審議会等の会議の公開に関する条例に基づき、会議の傍聴並びに議事録や会議資料を公開することとしています。会議の傍聴につきましては、事前に市報や市ホームページで案内しております。また、議事録につきましては、事前に委員の皆様に内容を御確認いただいた上で、発言者が特定できないよう公

開を行いますので、あらかじめ御了承ください。本日、傍聴は17名でございます。

以上、進行をお返しいたします。

○会長

ありがとうございます。

それでは、事務局から本日の資料につきまして御説明をお願いいたします。

○事務局

それでは、本日の資料の確認をいたします。

初めに次第がございまして、資料1から3が、委員名簿、席次表、専門家検討会議要綱です。続きまして、資料4、市民参加の結果についてです。資料5は、文化施設3館の関連を踏まえたグリーンホールの整備の位置づけについて、資料6、新たなグリーンホールの整備の考え方（調布らしさ）について、資料7、施策の連関表について、資料8、諸室（案）の連関表について、資料9、新たなグリーンホールの主な構成と検討の方向性について、資料10、令和7年度の専門家検討会議の開催予定です。最後に参考資料として、1から7までそれぞれ御用意しております。

以上ですが、過不足などがあれば、事務局までお知らせください。

○会長

よろしいですかね。ありがとうございます。

それでは、早速、議事に入りたいと思います。次第の2になりますが、まず1つ目の(1)報告について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局

報告事項について説明いたします。

初めに、資料4をお願いいたします。

1ページ目ですが、黒の部分が第2回検討会議までに実施した市民参加の内容となっておりまして、青の部分が第2回目から本日の第3回目までに実施した市民参加の内容となっています。

9月6日にはワークショップとしてワールドカフェを実施したほか、QRコードを活用した市民アンケート、関係団体ヒアリングとして劇団や美術関係団体、若者の意見として中高生の吹奏楽部、障害者団体に意見を伺いました。それでは、順に詳細を説明します。

2ページ目をお願いします。初めに、ワークショップについてです。令和7年9月6日土曜日にワールドカフェを実施しました。このワールドカフェとは、メンバーの組合せを

変えながら、少人数で話合いを続けることにより、多様なアイデアを得るための手法です。参加者は合計31名となりました。

右側の写真を御覧ください。初めに、市によるグリーンホールの整備に係る説明を行った後、全体では5ラウンドを設け、ラウンドの間には席替えをして、お話しする方々の組合せを変えていきます。なお、市によるグリーンホールの説明に関しましては、参考資料1を用いて説明しましたので、後に御覧いただければと思います。あわせて、ホールの事例として、めぐろパーシモンホール、平塚文化芸術ホール、小田原三の丸ホールなどを写真で紹介しましたが、資料の権利の関係で本日は掲載しておりません。

当日の様子としましては、下段の写真のとおりではございますが、調布市参加と協働のまちづくりアドバイザー、林田先生をファシリテーターとして意見交換を行いました。

3ページをお願いします。5ラウンドのワールドカフェの後に、各グループから発表いただいた内容をファシリテーターがホワイトボードに記録したものとなります。意見の詳細は後に説明します。

4ページをお願いします。ワールドカフェでは、意見を言いたくない方は、テーブルクロス代わりに敷かれた模造紙に意見を書くことができる仕組みとなっています。こちらの意見の詳細も後に説明します。

5ページ目をお願いします。このページから7ページ目までが、ワールドカフェにおいて発表や模造紙において出された主な意見となります。意見につきまして幾つか紹介します。

初めに、ホールに求めることについては、楽屋を広げるなら、平日も一般開放してほしい、市外から来ても魅力あるホール、大ホール、いろんな催しができる多機能大ホールなどの意見がありました。

6ページ目を御覧ください。現グリーンホールに関するこことについては、ステージが狭い、楽屋が少ない、ホールの予約がとても大変などの意見がありました。

また、建物全体に関するこことについては、駅前広場に面しているので、調布市の魅力を伝えるデザインにしてほしい、1階にフリースペース、みんなが使える、災害の時に逃げ込む、備蓄倉庫つき、そのような意見がありました。

次の7ページを御覧ください。その他の意見としましては、市の方針、考え方が見えづらい、2年間の計画中断期間などの市のこれまでの検討経過の説明が足りていない、市民意見をしっかりと反映してほしい、また、どのように反映したかアウトプットをしっかりとし

てほしい、ワークショップの意見を取り入れる検討会議としてほしい、本当に建て替えが必要なのか、建て替えではなく改修工事で済ませたほうが、工費や工期、ゼロカーボン推進のためにもリファイニング建築や改修工事のほうがよいのではないかなどの意見が出されました。

このほか多くの意見があり、ここに記載されてない意見につきましては、参考資料2に掲載しておりますので、後に御覧いただければと思います。なお、重複していると思われる意見につきましては割愛しております。

続きまして、市民アンケートについてです。

8ページをお願いいたします。市民アンケートは、8月5日火曜日から9月15日月曜日までの間、QRコードを活用したオンライン調査を実施しまして、60件の回答が寄せられました。

設問の1つ目、グリーンホールは将来どのような場所になるといいと思いますかにつきましては、まちを活気づけるにぎわいの場所、文化芸術を通じて、次代を担う世代の才能を伸ばす成長の場所といった回答が比較的多くなっています。

9ページ目を御覧ください。あつたらいいと思う室や機能をにつきましては、交流スペースであったり多機能ホールが比較的多い回答となっています。

10ページ目を御覧ください。設備面でありますが、カフェだとくつろげる交流スペースといった回答が多くなっています。

11ページ目を御覧ください。サービス面では、ミニコンサートや体験型の講座といった回答が多く寄せられました。

続いて、12ページを御覧ください。こちらは自由意見欄ですが、新たなグリーンホールに期待することには、誰もが気軽に利用し、観て聴いて文化芸術に親しむことと同時に、それ以上に市民が自ら参加し発表し自己実現する場として親しめる場としてほしいといった意見などが出されました。

また、民間施設と複合化するとしたら、どのような民間施設がよいと思うかとの設問ですが、カフェや飲食店、雑貨店、市内福祉作業所の調布の名産品のアンテナショップといった意見や、民間施設は必要条件ではないとの意見もありました。

13ページ目を御覧ください。その他の意見として、今後50年使う施設と考え、時代の変化に合わせて可変性のある施設計画や、将来世代に負担にならない方法でといった意見が出されました。

最後に、関係団体ヒアリングです。

14ページ目を御覧ください。これまでヒアリングしていなかった障害者団体、劇団、美術関係団体、若者の意見として中学・高校吹奏楽部から、5団体に意見をいただきました。

初めに障害者団体からは、リフトつき福祉車両に対応した駐車スペースの確保、障害者の方で声を出してしまう方が観覧できる鑑賞室を作つてほしいといった意見が出されました。

美術関係団体からの意見は、次のページにまたがりますが、提出していただいた要望書、具体的には参考資料3にありますので、一旦、参考資料3を御覧ください。

こちらの冒頭にありますとおり、1階には、外から見える作品展示スペースと、制作、実演、練習、演奏、踊り、パフォーマンスなどができるオープンデッキやオープンスペースを設置することをはじめ、美術館の設置など多岐にわたる要望や意見が出されました。また、詳細につきまして後に御覧いただければと思います。

資料4にお戻りいただきまして、次は16ページをお願いいたします。若者の意見としては、中学校・高校吹奏楽部に意見をいただきまして、現在の課題として、大型楽器の搬入が大変である、楽屋側のトイレが少ないといった意見が挙げられました。

17ページを御覧ください。新しいグリーンホールに求めることとして、グリーンホールでの催しの広報をもっとやってほしい、学生が観られるプロの演奏会を増やしてほしいといった意見が出ました。これは学生でも手の届く価格という意味のことです。

次に、劇団の意見につきましては、18ページにまたがりますが、現状で設備は整っているだとか、ピンスポットは2台あったほうがいいといった意見や、18ページに移ります。劇場という観点では、くすのきホールは響きやすく、演劇に適さないので中規模の演劇に使えるホールがあるといいといった意見などがありました。

こちらにつきまして、以上、長くなりましたが、市民参加の結果報告となります。関係団体については、団体の意見が特定できないように名称を控えさせていただいておりますので、御承知おきください。以上です。

○会長

それでは、報告ということになりますが、ただいまの資料の説明について、各委員から御質問などありますでしょうか。とりあえずは、よろしいですね。

もし、なければ、この後の協議事項と並行して御質問いただければと思います。

それでは、続いて次第の(2)の協議事項に移っていきたいと思います。まず、協議事項

のアについて事務局より説明をお願いいたします。

○事務局

新たなグリーンホールの整備の考え方について一括して説明いたします。

初めに、A4横の資料5を御覧ください。

第2回会議において御指摘いただきました調布市の文化施設の関係性について御説明します。

市の文化芸術施策は、調布市的基本構想を基にした基本計画において、「文化芸術にふれる機会が提供され、文化芸術活動が活発になる」ことを目指し、各施策を展開しております。

その拠点となるのが、調布市役所と隣接しております文化会館たづくり、調布駅前広場と隣接した調布市グリーンホール、また仙川にあります調布市せんがわ劇場です。

それぞれ異なった特徴を持っておりまして、調布市文化会館たづくりは、様々な機能を1つに束ねた複合施設として、500席、100席相当の中小のホールがございます。また展示室、大会議場、ギャラリー、映像シアター、会議室、創作室、音楽練習室など多岐にわたる諸室を有しております。

調布市グリーンホールは、質の高い文化芸術に身近に触れることができる場、市民の文化芸術の発表、創造の場として、大ホールではオーケストラコンサートやオペラなど大規模な催しなどを、プロを招いたり、市民の活動の場として開催しています。

せんがわ劇場は、舞台芸術に特化した創造拠点としまして、とりわけ演劇を中心に、公演だけでなく、地域全体に向けた舞台芸術活動の展開として、小・中学校や特別支援学校へのアウトリーチといった活動や、演劇コンクールなどを通じた次世代を担う実演家の育成などを担っています。

3館の詳細は、参考資料4を後に御覧ください。

このように、文化施設3館は、重複する部分も多少ありますけれども、それぞれ市の文化施策における役割分担が整理されており、代替が難しいものとなっております。

その中で、今回、調布市グリーンホールは、建設から約50年近くを迎え、施設、設備の経年劣化への対応やバリアフリーへの対応などが必要になっていることから、整備に向けた検討を進めているところでありますて、資料の右下にありますが、第2回検討会議において、整備に向けた検討テーマとして7つの案を出させていただいたところです。

続きまして、資料6を御覧ください。

こちらも前回御指摘いただきましたが、施設整備を検討する上で、調布市文化芸術の特徴と言えるもの、いわゆる調布らしさといったものがどこにあるのかといった点で事務局でまとめました。

市が基本構想で掲げている基本理念の1つである共生社会の充実をはじめ、調布市文化芸術推進ビジョンに掲げる、まちの多彩な文化資源があります。文化資源には、桐朋学園関係者、出身者であったり、バッハ・コレギウム・ジャパンをはじめとした調布市に関わりのある音楽関係者、団体などとの連携であったり、映画のまち調布として、調布市ゆかりの映画関連の企業やアーティストとの連携などがあります。

次に、豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言に基づく市の様々な文化芸術の推進です。市は、子どもから大人まで、女性も男性も、そして障害の有無にかかわらず、全ての市民がそれぞれに応じた活動を通して、文化芸術、スポーツ活動ができるまちを目指し、様々な文化芸術の推進に向けた取組を展開しています。

4番目が、調布市若者の文化芸術活動及びスポーツ活動の応援に関する条例による若者の文化芸術活動の支援となっています。令和7年4月から施行されておりまして、若者の活動の場の充実、若者に対する情報提供などの推進をしていくものです。

5番目が、駅前広場と隣接した調布市グリーンホールです。近隣市を見ましても、駅前広場と隣接した文化施設はほかにはなかなか見当たらず、広場と連動した取組が可能となる立地となっております。

6番目が、文化資源を生かしたイベントです。調布国際音楽祭やシネマフェスティバルなど、調布市が文化施策を取り組む中で、多彩な文化イベントに取り組んでおります。

以上が調布らしさとして事務局は考えております。

このほか、文化芸術分野以外として、調布市市民意識調査では、調布に進み続けたいと答えた人に聞いた、調布のまちの魅力や個性、特色を調べておりますけれども、交通や生活利便性、自然、深大寺などの歴史文化が上位に挙がっています。

次に、資料7をお願いします。

資料7についても、前回御指摘いただいた内容となっています。グリーンホールの整備における考え方が、現在の文化施策において、どのような連関があるのか示したものです。

横軸には7つの整備のテーマを記載しており、縦軸には文化施策の各項目を記載しています。具体的には、文化芸術推進ビジョン、調布市若者応援条例、そして、劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針の見直しの方向性（案）となります。

文化芸術推進ビジョンは、国及び東京都の文化芸術政策の動向も踏まえて策定しておりまして、5つの施策の連関について表示しています。

調布市若者応援条例は、若者の活動の場の充実、若者に対する情報提供、この大きな2つの視点があります。

劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針は、劇場、音楽堂等の事業を進める際の目指すべき方向性を明らかにすることにより、劇場、音楽堂等の事業の活性化を図ろうとするものとして平成25年に公布されたものです。現在、文化庁で見直しが進められております。その中から6つの項目を挙げているところです。この指針の見直しに関する検討状況は参考資料7にありますので、後に御覧ください。

各施策の連関を見ますと、7つの整備テーマ（案）がおおむね漏れなく網羅されていることが分かりましたが、各連関の度合いについては、本日の議論を踏まえながら、先ほど説明しました調布らしさ、今後の施設機能の検討への反映状況と合わせて整理して提示できればと考えております。

次に、資料8を御覧ください。

資料8は、現在のグリーンホールの主な機能である大ホール、小ホール、リハーサル室、楽屋、練習室、ロビー、ホワイエ、事務室やその他の設備などの6項目について、今後検討していくべき考え方（案）を連関で示したものとなっています。

資料中央の、整備後の活用例（案）を御覧ください。7つの整備テーマについては、前回、どこまで取り組むのかといった議論もありましたけれども、事務局の案としましては、一部、新たに取り組むものを想定しつつも、各項目において、現状の機能を強化していくことで、既存の取組を拡充していくことを中心に考えております。取組の詳細や時期については、現段階において資料上明記しておりませんが、市の基本計画や文化芸術推進ビジョンを踏まえて検討してまいりたいと考えております。

以上が協議事項、アの資料説明となります。調布らしさについての御意見や、調布らしさをどのように整備テーマに落とし込むのか、また、整備後の活用例などについて御意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局

すみません。事務局で少し補足をさせていただきます。

調布らしさの資料6の説明のところでございましたが、豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言のところで、市の取組の考え方としましては、年齢や性別、障害の

有無、国籍、経済的な状況などにかかわらずといったところで、全ての市民がつながって、お互いの個性を尊重して認め合って、共生社会の充実に向けた取組を進めていくところで補足をさせていただきます。

○会長

ありがとうございます。この7つの整備テーマを前回挙げていただきましたが、それについて検討会議でいろいろと意見が出て、それを受け再構成していただいたと思いますので、今日はこの辺りをしっかりと確定させていければと思います。ただいまの資料の説明について委員の皆様から、この場で様々な視点から、より多く御意見を出していただければと考えております。

それでは、委員の皆さん、いかがでしょうか。御意見ある方は挙手をしていただければと思いますが。それでは、D委員、お願ひいたします。

○D委員

幾つかあるので、少し小分けにして発言いたします。まず、御説明いただきましてありがとうございました。

市民の皆さんからの御意見もたくさんたくさん頂戴して、これを実現するのは大変だなという、まず率直な感想ではございましたけれども、市民の皆さんのお見はほとんど出尽くしているのではないかとも思いました。参考資料もざっと目を通させていただいたのですけれども、ただ、意見の中に不足している点も多々あり、それをこれから少し指摘させていただきたいと思います。

また、この御意見を実現するためには、悩ましいことに、その敷地の面積であるとか、建設予算の問題がありますので、どこをどのように意見を精査していくのかが求められるのではないかと思いました。

前回、連関表を作つてほしいという依頼をしまして、資料の7と8になりますが、ありがとうございました。

私の意見としては、方向性として大きく3つあるのではないかと考えていて、1つは多様性、2つ目は包摂性、3つ目が創造性、この3つの柱がすごく重要なのではないかということを、市民の御意見の中から整理をさせていただきました。

ビジョンにも掲げられています共生社会なのですけれども、この共生社会をどのようにして推進していくのかということで、グリーンホールの中にもこの共生社会を育む場としても機能させが必要ではないかと思った次第です。

先ほど資料5のところで3館の関連を踏まえたグリーンホールの御説明がありましたけれども、この3館に横串を入れるとすれば、その方向性は共生社会なのだろうなと思います。文化庁の地域中核劇場の支援にかかる新しいニュースなのですけれども、令和8年度の文化庁の劇場、音楽堂の地域中核の助成事業の柱の中に、共生社会事業が新規で加わったのです。今まで普及啓発活動と社会包摂活動をどのように峻別していくのかということが曖昧な中で推進され10年経っているのですけれども、現在、劇場法の指針の見直し作業が行われている中で、指針の見直しの前に、芸文振と文化庁のほうで普及啓発事業と共生社会事業を仕分けして申請するという枠組みができたということは、とてもよいことなのではないかと思います。

逆に言うと、調布市のこの共生社会のミッション、ビジョンというものが先導して、ようやく、国や芸文振の助成の枠組みが追いついてきたのではないかという考え方もあるのではないかと思っているのです。

その共生社会の機能を充実させるためには、障害を持たれている方、生きづらさを感じていらっしゃる方々の当事者の意見を聞くということが、やはり物すごく重要ではないかと思っています。

先般、10月4日ちようふ彩咲祭という事業がありまして、1日拝見させていただきまして、非常に楽しみました。このちようふ彩咲祭という名前に掲げられたミッションというのは、「参加する市民一人一人がこの祭りを明るく彩って、それぞれの個性や魅力を花のように咲かせてほしいという願いを込めました」ということで、今までの調布よさこいの完全リニューアルというのが、ここで新しく芽を吹いたなと感じて、非常に感動したお祭りでした。その展示の中に在留の外国人の展示がありました。その在留の外国人の方々は、こういう3館の優れた拠点施設があるのにもかかわらず、拠点の意識が全くなく、文化、歴史については非常に興味を持っているのだけれども、拠点があるということの意識がどこにも集計されていなかったのです。これはどうということかなと思いました。調布市の人口の約2.5%が調布市に住まわれている外国人の方なのだそうですが、今後、調布市の在留外国人の方々も含めて共生社会というものを考えなければいけないということを切に思った次第です。

それから、共生社会事業とか社会包摂事業というのは、行政の側からすると非常に推進していかなければいけない事業なのだけれども、収入が伴わない、収益の果実が少ないので、結構煙たがられたりするのです。それは福祉の問題なので、文化芸術の事業ではない

のかみたいなことも聞かれていますが、それは真逆で社会包摶活動とか共生社会事業を進めていくことによって、来館者数、参加者数は絶対増えていくのです。鑑賞者も増えます。施設の稼働率も上がります。副次的な効果かもしれませんけれども、共生社会事業することによって、収入もかなり貢献できるということが期待できます。実際に基礎自治体における文化施設、公立の劇場で実証済み、良質な成功事例もございます。共生社会というビジョンは、これから先重要な観点として推進していかなければいけないと思いました。

ちょっと長くなりますが、これで1回切らせていただきます。

○会長

ありがとうございます。共生社会というキーワード、多様性、包摶性、創造性というのは非常に重要だと思いますので、それをより一層この中に入れてほしいということかと思います。ありがとうございます。

それでは、続いていかがでしょうか。E委員、お願いいいたします。

○E委員

共生社会というキーワードも出て、私自身もちうふ彩咲祭に出演させていただいたりとか、実際の車椅子の当事者なので、障害があるアーティストの方の活動というのはいろいろ存じ上げているほうかなと思います。

そういう中で、例えばホールなどでイベントをしても、結局関係者が多かったりとか、一般の障害がない方が偶然見るみたいなことがあまりないのかなと感じています。それはホールの造りで解決できると思っていて、例えば今だと、グリーンホールの1階はあまりスペースがなく、ホワイエは2階にあって、実際に階段を上がってホワイエのほうを通らないと、中で何をしているかが分からなかったりとかする。今ちょうどグリーンホールの前が子どもの遊べるスペースになっていたりするので、ああいう場所で外からホールの中を見て、実際にホワイエみたいなスペースでいろいろな方がちょっとした演奏だったり、パフォーマンスをしていたり、展示をしていたり、その中に障害があるアーティストの方の展示だったりパフォーマンスというのがあると偶然見かけたり、実際にお子さんだったりとかが偶然見られるという仕組みをホールでつくったほうが、実際に具体的に共生社会が広がるというきっかけになるのかなと思います。

今のグリーンホールの2階にある状態だと、偶然見かけるということはなかったり、たづくりの2階の展示でやっていても、実際に知っていないと行けない。子育てをしているお母さんが駅前の広場で子どもを遊ばせているときに、偶然、音楽を聴けたりとか生演奏

を聴けたりみたいなきっかけで、ではグリーンホールの中をちょっと見てみようかと子どもを連れて行けたりとか、そういうきっかけをつくるための仕組みが何かしらグリーンホールにあつたらいいのかなと考えています。特に1階の外から見られるスペースというのは重要なスペースになるかなと考えています。これは1つ意見です。

もう一つ、別の観点で御質問なのですが、資料4で、建て替えではなく改修という話があつたと思うのですが、今、恐らくいろいろ検討していただいている中で、大きくコストを下げる案の中で、改修は検討の項目にあつたと思うのですが、現状、改修ではなく建て替えになつた理由の観点を幾つかシェアしていただけるとうれしいです。

○会長

改修か建て替えか、ということについては、事務局からの回答でよろしいですか。

○事務局

今現在のグリーンホールの敷地及び、隣に建つてゐる移転予定の総合福祉センターの敷地において、地区計画という制限が課せられております。

具体的に言つうと、駅前広場側や市役所前通り側からのセットバックというものを位置付けていて、その制限を本来守るべきなのですが、建物が建つた後に制限が課せられているので、今、既存不適格という状況になっております。

この既存不適格という状況は、違反状態ではあるものの、建物建築後から制限がかかつてゐるので、違反という扱いにはなりません。ただし、建替えや増築、改築を行う際は原則として基準に適合してくださいということになりますので、今まま使い続けるか、リニューアルする分には対応しなくともいいのですが、増改築などを行う場合は対応する必要があります。基準に対応した場合、先ほど申し上げたとおり、駅前広場側も市役所前通り側も建築物を後退させなければならないという制限を守る必要があります。緩和もいくつかあるのですが、現状の敷地の中で収めないといけない等の条件があります。増改築ではなくリニューアルを実施する場合、これまでにもいろいろ意見が出たような楽屋が狭い、エレベーターが今のものだと小さいなどのバリアフリーの対応を行うためには、何かのスペースを犠牲にしない限り、何かに転用するということ以外で、新しく床を生み出すことができないので、改修では、課題として認識しているもの全てに対応することは正直厳しいと考えています。

○E委員

理解しました。ありがとうございます。

○会長

ありがとうございます。今の話は、現状の規模を現在の性能で造るとなると、敷地の面積上で難しいという話と、最初にE委員がおっしゃっていた、1階をもう少し開いた形のホールにするみたいなことを考へるのであると、現状のものだとなかなか難しいところがあるということだと思います。

それでは、F委員、お願ひいたします。

○F委員

今の建て替えの意義に関連しての質問なのですが、先ほどの資料の中に、今のグリーンホールの耐震に関しての資料が入っていなかったような気がするのですけれども、耐震は今の状態のホールというのは適合している状態なのか、それとも耐震は適合していないのか。その辺もちょっとお話し頂けると。

○会長

それでは、事務局からお願ひいたします。

○事務局

昭和56年以降は耐震基準が変わっているので、いわゆる旧耐震という建物ではあります、計算したところ、耐震性能はあると確認は取れています。特段、耐震補強のようなものは実施しておりませんが、性能としてはあるという認識をしています。

○会長 よろしいですかね。

○F委員 はい。

○会長 それでは、G委員、お願ひいたします。

○G委員

資料の9番のほうで申し上げたほうがいいのかなと思ったのですが、今、E委員から出たので、申し上げます。今話題に出たような建築基準法上どうなっているか、都市計画法上どうなっているか、容積率や高さ制限はどうなっているかなど、この辺のこうした基礎情報をシェアしていただいた上で議論するのがいいのではないかなと思います。その辺をまた用意いただければと思います。

○会長

それでは、今後の資料への御意見ということでよろしいですかね。ありがとうございます。ほかに御意見をお願いいたします。それでは、H委員、お願ひいたします。

○H委員

意見というほどのことではなくて、E委員の発言に重ねるのですけれども、私、調布市民になってから40年になります。この最近の調布駅南口というか、もう南口という呼称もないわけですが、その変貌ぶりに日々驚きながら過ごしていまして、何に驚いているかというと、バスターミナルが整備され、いたるところにベンチができる、猛暑の夏には日陰を作るというか、ミストが出るような設備もできている。天気の良い日には、お母さんたちが子どもを遊ばせていたり、高校生が集まって談笑している。要するに、市民の日々の暮らしに非常に近いというか、さりげなく人が集う場所になっていて、見ていて実に心地よい。

今後「グリーンホール」と呼ぶのかどうかは知りませんが、新しく構想しているホールには、そういう人たちがさらに気軽に足を運べる、一跨ぎですからね、それを広場と直結する開放的な1階に、「音楽」でも「演劇」でも「映画」「アニメ」でも何でもいいのですけれども、そういう文化芸術に興味をもっていただいて、触れやすい、オープンな情報発信スペースを設置したいですね。今も、たづくり1Fでシアタス調布の上映作品の紹介をしていますが、より拡充させることもできるでしょうし、映画映像関連各社の協力をいただくこともできるでしょう。より「映画のまち調布」らしく。

結局は、まちのにぎわいと人間が集まったところからしか文化は出てこないので、コンセプトの最上位にそれをおいて 24万のまちで駅が地下化することで、これだけ広大な空間が空いて、ここで暮らしている人たち、特に子どもたちが増えるというのは大変重要なことなのですから、そういう人たちが文化芸術に触れるきっかけになる、そういうホールにしていただきたいなというお願いです。

○会長

ありがとうございます。そういう意味では、この7つの整備テーマの一番最初のところに、全ての市民が文化芸術を通じて集い、語らい交流する広場という言葉を使われていますので、まさにこれを一番最初に掲げているということが、今のH委員の御意見を示していることに結果的になると思います。やはり、広場という言葉を使っているので、それが実際に駅前の広場からも連続する室内の広場みたいなことが考えられるとよいのではないかと思います。ありがとうございました。

ほかにまだ御意見をおっしゃっていない方はいかがでしょうか。それでは、B委員、お願ひいたします。

○B委員

今、たくさんの御意見、特に市民の皆さんの御意見は事前に頂戴した資料でも本当にたくさんいただいたて読み込ませていただきました。皆さんおっしゃるように、これを全てかなえられたらどんなにいいのだろうと思いますけれども、精いっぱい、いいホールのアイデアというのを皆さんで出し合ったらと思うのですが、1つ私からはソフトとハードの側面で、私は完全にソフト側の人間といいますか、音楽をやっておりますので、音楽を通して少しでも多くの方に幸せな気持ちになってほしいと思っていつも活動しております。

そのためにはやはりハードが当然必要なわけで、今、E委員がおっしゃったような開かれたホールというのは本当にすばらしいモデルで、ちょうどこの社会もグリーンホールができたときと今で全く違っているように、今の社会にふさわしいホールというのは、自然と今の状態とは違った見方になるのかなと思います。

今は非常に堅牢で、まさに中で何が行われているか分からぬ。私が手がけています音楽祭でも、それを何とかしたいということで、例えばキッチンカーや、ゆるキャラに来ていただいて広場で音楽を演奏していただきて、そこでいいなと思った方に、ちょっと中に入ってきてもらうようにお願いして、ゆるキャラの方にも中に入ろうと一緒に連れてきてもらったりしたこともありますが、真面目なもぎりの方が、すみません、お面を取ってくださいと怒られてしまったというようなエピソードもございますが、そういった外のつながりは、ぜひ重点的に設計をしていただけたらと思います。

もちろん全てが透明に見えるだけではなくて、例えば、まちなかに新しいレストランができる、どんなレストランなのだろうと入るまでどきどきしていて、入ってみたら、その空間の居心地のよさに癒やされるような側面もコンサートにはあるのかなと思いますので、そこがうまくソフトと共同でいい形で中に興味を持ってもらえて、また入ってみると、すてきな今までにない非日常の世界を味わえる。そういった空間になったらすてきかなと思います。

それから、この調布市に住み続けたい理由のところで、交通というのが一番最初にございましたが、これは、実は私たちの舞台に乗る側にとっても同じことでして、たくさんの方に来ていただきやすい立地にあって、都心からもすぐ来られますし、そういった中で本当に多くの優れたアーティストや感性を持っている方が調布により集まりたいと思うような場所になって、また調布の方もそれで調布のまちを一層誇りに思えるような、そういう建物になるべく頑張っていきたいと思いますので、皆さんもよろしくお願ひいたします。

○会長

ありがとうございます。C委員、よろしくお願ひいたします。

○C委員

皆さんおっしゃっていましたけれども、本当に市民の方から上がった声というのがどれも実現したらいいものばかりなので、うまく実現できる道を探るのが大切だと思います。

全部は同時に実現できないにしろ、共通して上がってきている柱みたいなものは、4つ挙げられると思いました。

まず、日本人全体が高齢化していますから、障害のある方でなくとも、ユニバーサルデザインにきちんと立脚したデザインにするのは、これから建てられる劇場、ホールにはとても重要でしょう。

2番目にあるとしたら、駅前にあるので、にぎわいと交流の場所であることは皆さんご指摘の通りです。また、グリーンホールを文化の「建物」ではなく、そのまちにある文化的「組織」として考えるべきが、その組織、その町にとって何がリソースになり得るかということです。調布にとっては、音楽大学があつたり、バッハ・コレギウム・ジャパンがあつたり、映画スタジオの歴史があつたりということが、まちの大きなリソースですよね。ですから、そこに立脚すること。既存のもの、もう一つ重要なリソースがありまして、調布市がどれくらいお金や専門家を用意できるのかという財政面のリソースや専門人材のリソースとあわせて、車の両輪で考えていくべきことなのだろうと考えます。

3つ目に、音楽が重要な要素になるだろうということは、この調布のリソースから言えると思います。

最後に、市の大きな施策の中に若者支援というのが入っていますから、文化施設として稽古場、練習場の拡充が大変重要だと言えるでしょう。

これら全部は、建物の問題ではなくて、グリーンホールの建て替えを待たないでも、調布市と財団の運営面の工夫でできることもあるのではないかなど私は思っております。ここらへんが、皆さんのお話を私の言葉でまとめてみた感じです。

提言としては、市民の方の言っていることをまとめてみて、でも、恐らく、この中で並列できないことがある——例えばオペラもオーケストラもしたい、でも客席がある程度の数は欲しい、トイレや楽屋や稽古場が足りない…どこかで選ばなければいけないですね

それと、言葉でいうと、「多目的」という名前がちょっと独り歩きしているなという気はしています。演劇や舞踊側の人間からすると、下手をすると、多目的は無目的と悪口を言っている人たちがいるぐらいに、実際には何にも使いにくいというホールができたりす

ことがあります。ですので、多目的ホールという言葉は気をつけて使うほうがいいのではないかかなということを一言言わせていただきたいと思います。

そして、運営に関してなのですが、実は私どもの自分の大学の話で恐縮なのですが、去年からうちの職員に車椅子の青年が1人います。彼が働くということが決まったので事務所の改修をしました。どこでも車椅子が通れるようにしたら、何が起こったかというと、誰にでも使いやすい事務所ができました。ですので、財団でいえば、今のうちから、グリーンホールの中にもいらっしゃるのかもしれませんけれども、中にお1人、車椅子の方とかにいていただいて、ここがもっとよくなったらいいよね、みたいなことから実際にお始めになってみたらいいのではないかと思います。障害に関しては、ほかにも聴覚視覚と様々な障害がありますので、中に入っていただきながら一緒にやっていただくのが、実際は一番成功に近い道なのではないでしょうか。

また、資料7を拝見していると、調布市はグリーンホールや財団に多くの専門家を配置するのが重要だらうと強く思います。なぜかというと、市の施策目標の中に運営、企画、国際連携とか、他分野との連携という言葉などが出てきているのですが、それらは、もちろん市役所には非常に優秀な方がいらして全部おやりになってくださいればいいのかもしれませんけれども、全部が全部、市役所の方ができるわけでもないので、市の意向を汲んだ出先の組織である文化財団みたいなどろに専門家がたくさんいて、特に調布はせんがわ含めて3館ありますから、異動しつつさらに専門性を高めながら、仕事に当たるというのができるととてもいいだらうと思います。舞台芸術の仕事はやはり専門家が必要なジャンルです。

どんな事業を展開していくのか、誰にどう貸していくのか、どんな運営にしていくのか。ロビーが閑散としてしまう問題というのは、例えば伊東豊雄さんが設計した、まつもと市民芸術館とか長岡リリックホールのように、もぎりの場所を変えるだけにぎわいが創出できる。専門家はそういう事例を知っていますので、専門家を雇用することでアイデアが出て、様々よい運営に貢献できるのではと思います。

○会長

ありがとうございます。いろいろな点がありましたが、今でも運営でいろいろできることがあるのではないかというような御意見でした。

それでは、B委員、お願いいいたします。

○B委員

すみません、交通の便のアクセスのところで重要かもしない点を1つ質問させてください。

地下通路で調布駅とつなぐことというのが、建築コストの面で物すごく高いだろうと想像はするのですけれども、可能性はあるのか、それとも全く不可能なのか。その場合、例えば、逆に雨の日に駅から濡れないで行けるための歩道橋を設置するとか、屋根を設置する、その辺の御検討が既にあるのかどうか。

あとは、お金がたまつたら、穴を開けるような壁を残しておくような設計が可能なのかとか、ちょっと疑問というか質問させてください。

○会長 事務局での回答はいかがでしょうか。お願いします。

○事務局

今御質問ありました、調布駅の地下から、いわゆるグリーンホールの敷地部分までの通路化というところとか屋根のところというのは、現状では計画としてはないところになります。現状で我々のほうで把握しているところで答えられるところは、そこまでかなというところでございます。

○事務局

補足になりますが、調布駅側が、そもそも今、そういう穴が抜けるような構造になっていないという認識です。また、駅は京王電鉄株式会社の施設であり、当然そちらとの交渉等もあるので、現時点ではハードルが高いという認識を持っております。

○B委員 分かりました。ありがとうございます。

○会長 それでは、F委員、お願いいたします。

○F委員

今のB委員の地下の意見にちょっと付随してなのですけれども、地下が駄目だった場合に、今、グリーンホールの入り口が2階になっていると思うのですが、逆に上空のほうに何かうまく、エスカレーターで上がってきて、そのままずっとグリーンホールも行ったり、その先抜けて、道を渡って市役所のほうまでつなげて、たづくりホールもつなげて、一体的に調布市の開発をしていくようなことができるのか、できないのか辺りも、もしありましたら。

○会長

ペデストリアンデッキのようなものを造るということだと思いますが、なかなか難しいだろうと考えられます。

○事務局

現状では、そのような計画がまずないというところはあります。また、まちづくり全体での話ということになりますので、現状で、我々の今回のこの議論の中では、なかなか難しい、というお答えになってしまいます。

○会長

そうですね。一方で、今は1階が広場というか地上の部分なので、結局、2階に上げると、それはそれでまた広場と断絶することになってしまうし、当然コストもかかるということがあるので、なかなか難しい部分もあると思います。ありがとうございました。

○B委員 通行する方が濡れないで行けるといいですよね。

○会長

そうですね。そういう意味では、地上部分に屋根がかかった通路があるというところが、可能性としてはあると思います。ありがとうございます。

では、I委員、お願いします。

○I委員

皆さんおっしゃっていることが、話がだんだん進んでいるなという感じがありました。今日出していただいた資料6、7、8、この辺がすごく大きなネタがあるのではないかと思います。特に、前回、調布らしさは何かとおっしゃった委員の方がいらっしゃって、資料6を作っていただいた。これを見ると、十分調布らしさがあることを、既に端緒についていると思います。もう世代間交流だとか地域間交流みたいなのも起こる仕掛けがあるし、共生社会、インクルーシブという参加のシードもあるなと思いました。それから、音楽、映画、この彩咲祭というイベントも含めて、人が集まったり、交流できる仕掛けがあるなと思います。

私も調布国際音楽祭に参加させていただいたことがあるのですけれども、B委員がすごく努力をされてやられている、特徴を持った音楽祭になっていると思います。もう少し集客ができればいいなという気はしますけれども、こういうシードがあるので、交流だとか参加だとかというのは十分ある。これをどうサステナブルに成長させていく仕組みをつくっていくのかというのが、これから大きな課題だろうと思います。

そのための拠点となる施設をどう造っていくのかというのが大きな課題になるのが1つと、それから、C委員がおっしゃっていたように、うまくそれらを組み立てていく人材、能力を合わせていく必要がある。それから、最終的には、それを支援していくエンジンに

なる、具体的に言うとお金ということにもなるかもしれませんけれども、文化投資をどうつくっていくのかということがエンジンとして必要になっていくので、その辺を組み立てる拠点として、このグリーンホールの整備というのを位置づけていくのがいいのではないかなと思わされました。

○会長

ありがとうございます。それでは、一通り御意見をいただいたということでよろしいですかね。事務局、よろしくお願ひします。

○事務局

すみません、発言の訂正を1点だけ事務局でさせていただきます。

資料6の説明の中で、市の様々な文化芸術の推進において男性も女性もという形で発言しましたけれども、後に事務局から補足しましたとおり、「年齢、性別、障害の有無、国籍、経済的な状況にかかわらず」と、発言のほうを訂正させていただきます。

○会長

ありがとうございます。協議事項のアについては、いろいろ御意見をいただきました。調布らしさという話の中で、共生社会というキーワードだったり、駅前広場と隣接するということなどがありました。そういう意味では、ここでは7つの整備テーマを具体的にまとめていくところですが、駅前広場についてはいろいろな御意見、開かれたホールとか、そのようなキーワードが出て、そこは、この1つ目の広場とするというところに表れていると思います。もしかすると、共生社会ということが調布市の基本構想には出ていますけれども、この整備テーマから、より読み取れるようにしていただけると、さらに調布らしさが強調されていくと思いますが、およそこの7つの整備テーマで皆さんよろしいということだと思います。まずは、協議事項のアを終わらせていただきたいと思います。ありがとうございます。

それでは、続いて、協議事項のイに移っていきたいと思います。グリーンホールの主な構成と検討の方向性について、ということで事務局より説明をお願いいたします。

○事務局

新たなグリーンホールの主な構成と検討の方向性について説明します。

資料9を御覧ください。

こちらは、大ホール、小ホールなどの各施設機能について現在の施設データ、特徴を踏まえ、事務局の考える今後の活用案を記載しています。

また、検討に当たって参考とする市民意見を記載しております。市民の皆様からは多くの意見をいただきしております、ここに記載のない意見も含め、様々な角度から検討を進めてまいりたいと考えております。

まず初めに、大ホールです。大ホールは、音響性能、設備の向上などを目指しながら、引き続き、オーケストラコンサート、コーラス、吹奏楽のほか、オペラや伝統芸能、演劇、舞踊など、多様な利活用を目指せるホールを検討していきたいと考えております。

次の2ページを御覧ください。小ホールにつきましては、大ホールよりも小規模な、演劇、ダンスやバレエ、伝統芸能や室内楽、歌唱、軽音楽、美術の展示会などにも活用できるホールを検討していきたいと考えております。

次の3ページ目を御覧ください。リハーサル室、楽屋、練習室機能については、現状よりも部屋数などの拡充を視野に入れつつ、引き続き、各種練習、リハーサルなどにも使える機能を検討していきたいと考えております。また、市内の練習場所への要望や若者の活動の場の提供の一環としまして、市民意見にもありましたけれども、土日以外、ホールが使っていないときに、市民が利用できるような工夫もできないか、そのようなことも検討していきたいと考えております。

次の4ページを御覧ください。ロビー、ホワイエについては、広い空間を利用した美術展示や、催物に関係のない方でも気軽に利用できるような空間も視野に検討していくべきと考えております。どの機能をどこに配置するかは今後検討していくことになりますけれども、エントランスを含め駅前広場との連動も踏まえながら、多くの人が活用できる機能を検討していきたいと考えております。

次の5ページを御覧ください。事務室機能については、市民が催物の企画について相談できるような機能のほか、動線やスペースの広さなど、運営が円滑にできるように配慮をしてまいりたいと考えております。

次の6ページをお願いいたします。その他の設備についてですが、現在のグリーンホールの課題がありまして、市民意見にも多かったバリアフリー対応のほか、親子鑑賞室の設置などを目指していきたいと考えています。また、関係団体ヒアリングなどにもありましたけれども、障害者などの利用に配慮した機能案を検討してまいりたいと考えています。

続きまして、7ページ以降です。幾つかの施設を掲載しております。こちらは掲載している施設を目指すといった意味ではなく、様々な事例を参考にしながら、各機能を検討していくという意味で掲載しております。

幾つか御紹介しますと、大ホールは、現在のグリーンホールに近しい規模のホールですが、ひらしん平塚文化芸術ホールは、2022年の建物でありまして、可動式の音響反射板を利用したプロセニアム方式のホールとなっております。

茨木市文化・子育て複合施設おにくるや立川グリーンスプリングスは、エントランスや屋外広場との平面で連動しているなど、連動性を生かしたホール機能となっております。

次のページを御覧ください。せんだいメディアアークのエントランスであったり、三重県の津市久居アルスプラザは、自由に入ることができるオープン仕様となっておりまして、展示などにも活用されている例となっております。

次の9ページを御覧ください。トイレ、託児スペースでは、男女間の仕切りを可変するトイレや、ウォータースルーフ構造のトイレなど、様々な事例がございます。また、近隣施設であるパルテノン多摩の子育て交流スペースOLIVEでは、本やカフェなど親子で楽しめる設備がホールに併設されています。

こちらの説明は以上となります。検討に向けた視点や、他ホールのよい取組や事例など、こちらでアドバイスいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

○会長

ありがとうございます。各機能について、このような考え方で進めていかなければ、ということかと思います。今、事務局からもお話をあったように、そういうことであればこんな事例があるのだというようなこともあれば、交えて御意見いただければと思います。

それでは、G委員、お願ひいたします。

○G委員

今後、いろいろな使い方について御意見いただくのだと思うのですけれども、私が思うに、この資料の9番が、基本的に建物の中のホールですとかお手洗とか部屋の話にもう入っているのですが、そういったお部屋というのは建物の中にあるので、先ほどちょっと申し上げたように、建築基準法ですとか都市計画法ですとかそういうのが必要だという話をしました。

さらには、建物というものが敷地の上に存在をしているので、その敷地の条件、例えば駅からの動線ですか、周辺の施設との関係ですか、利用の仕方、ここは荷さばきスペースにしたほうがいいのかとか、緑化の仕方。あるいは、先ほど御意見いただいたように、入り口と外の関係性、遮蔽するのか、ウエルカムな演出をするのか、そういった建物の考え方とその周辺の敷地、この辺の考え方も併せて主な構成と検討の方向性としてい

ただきたいなと思うので、次になるのかもしれません、この辺もぜひとも最初のページなのか最後のページなのかに入れて、皆さんと議論していただきたいなと思います。お願ひです。

○会長

ありがとうございます。搬入とか緑化とともに含めて、配置計画的なことも資料の中にぜひ入れてほしいという御意見かと思います。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。それでは、D委員、お願いいいたします。

○D委員

次の検討会の中身に大きく関わることだと思います。機能のことも含めてなのですから、市民の方々からいただいた御意見を拝読させていただいたときに、客席、それから舞台中、その意見は多かったと思うのですけれども、バックヤードの視点が薄いなどということを感じました。

アーティスト、文化芸術活動者、それからスタッフにとってバックヤードというのは、本当よりよき空間でないといい舞台を務めることができません。楽屋の指摘はありましたよね。また、廊下、広い廊下、障害者のアーティストも車椅子で悠々通れるような廊下が、よき舞台をつくる上で必要です。バックヤードは、精神が落ち着く場となるような空間と広さが必要ではないかと思います。

スタッフは特に、朝一番で小屋に入って、一番最後に出るわけです。舞台の仕事をする前に着替えますよね。でも、着替えするところがない劇場が多いと思うのです。私もプロデューサーとして各地の文化施設で公演をしたことがあるのですけれども、時々、スタッフの皆さん申し訳ありませんというような気持ちになったことがすごくよくあります。

スタッフに関する配慮は、グリーンルームや更衣室などを充実させが必要です。それは安全管理、危機管理のことにつながっていくからなのです。心身ともに休むことができるようなバックヤードの充実というのは、必要ではないでしょうか。

2点目は、安全管理、危機管理です。施設管理をするうえで、当然のことながらですが、舞台中の技術研修というのはあるのですが、施設の外側の安全管理、危機管理はどのくらい注意が払われているのかなということです。今年の夏、このことに関する事件がありました。私の元部下が舞台監督で、駐車場で芸術団体の車を誘導しているときに、誤って6メートル下に転落して死亡てしまいました。そのときの安全管理というのは本当にどうなっていたのだろうかと。駐車場に、ここは危ないよという看板が立てられていたのか、

施設側の管理者が必ず1人、そこに常駐して立っていたのかなど。

舞台中ではいろいろなことが起こります。ですけれども、舞台外もやはり気をつけていかないと、死に至ることがあるということで、転落した彼の死を無駄にしないためにも、この会議でお話をさせていただきました。施設内のみならず、施設周辺の安全管理も含めて考えていかなくてはいけないだろうなと。公文協のアドバイザーを私も務めておりまして、反省した次第です。特にぎわいの創出、広場をつくるということがこの計画の中に入ってくると、市民の安心・安全をどのように守っていくことが必要なのかということは、十分気をつけなければいけないことなのだろうなと思いました。

それから、エントランス付近のことなのですけれども、B委員も発言されておられましたが、出入りというのは非常に重要かと思います。ここで私がお勧めしたいのが、写真にも出ております、札幌市民交流プラザなのです。ここは図書館とか、カフェとか、人気のレストランがある、比較的新しい複合施設なのです。吹き抜けのエントランスと自由に活用できる交流のスペースがあって、市民が絶えず出入りしているのです。

人気のレストランというのは、行政の文化担当者の方が非常に人気のあるシェフのカフェをオープンさせたりして、絶えず人が出入りしています。この空間は非常に見倣う必要があるのではないかなと思います。

また、文化芸術の側からではなくて、行政が行う支援の観点から指摘をさせていただくと、子育て支援に係る機能があるということは、これから必要なのではないかなと思っています。改修後のパルテノン多摩の子ども広場OLIVEとか、茨木におにクルという子育て支援施設と文化芸術機能を掛け合わせた施設ができているのですけれども、これも非常に活性化しています。カフェのレストラン、子どもの遊び場、絵本などがあって親子でくつろげる空間、毎日にぎわっているということでございます。

以上4点、指摘させていただきました。以上です。

○会長

ありがとうございます。いろいろ御意見をいただきましたし、幾つか事例も挙げていただきましたので、その辺りをまた次回のものに反映していただければと思います。ありがとうございました。

それでは、B委員、お願いいいたします。

○B委員

私も、おにクルへ何度も行きましたけれども、本当ににぎわっていまして、キッズエリ

アに100円とか200円ぐらいで入れる。入場料を取るのですけれども、非常に廉価で、子どもたちが遊べるスペースと、また音響のいいホールが合わさって、非常に理想的だなと思いました。

また、おっしゃったバックヤードに関して、これは実現してほしいということではないのですが、ヨーロッパの劇場は必ず舞台裏にカンティーネというのがございまして、舞台裏のスタッフ専用の食堂ですね。そこは、おっしゃったように危機管理とか、お互いに変な人が出入りしていないかというところも、そこで自然とコミュニティーができるというところで、やはり日本はどうしても殺伐とした舞台裏が多いなと思うのですが、一アーティストの意見として、こんな勝手なことを言うと思って聞いていただけたらと思うのですが、やはり音楽をしていても、恐らく演劇の方も一緒だと思うのですが、舞台に向かうというのは、ある意味で恐ろしい作業で、時に物すごい恐怖と戦いながら舞台に上がるわけです。

もちろん、せりが安全であるとか、そういった物理的な安全は最低条件といいますか絶対条件ですけれども、それだけではなくて、市民の皆さんをはじめ舞台に上ろうという勇気のある人たちを温かく後押しするような、そういった環境、それはインテリアのデザインや通路の幅もそうですし、空調、楽屋の広さ、本当にわずかなことが舞台を左右しています。

これは舞台に乗ったことがある方はどなたも同意してくださるのではないかと思うのですけれども、そういう点で、ぜひ裏側もしっかりとそういった環境づくりをしていただきたいというのが1つと、お客様が来られるように、茨木もそうですが、音楽祭もまちなかでやっていまして、その音楽祭はもちろん音楽のお祭りですが、音楽を中心とした祭りと位置づけてやっておりまして、決して音楽のイベントだけがあればいいわけではなくて、そこにはカフェも必要ですし、おっしゃったようなソフト側の工夫で音楽祭のときにはより開かれた感じに演出したり、使用するということもできると思うのですが、そういった意味でフレキシブルな外側ですね。

それから、長くなつて恐縮ですが、3点目に搬入口です。これは本当に重要でございます。現状、オーケストラのトラックは年々大型化していまして、例えば私が指揮者を務めている読響のトラックは全部が入りませんので、歩道のところにはみ出すような形になつてしまつたりします。ですから、搬出が終わったら移動しなければいけないとか、そういったことが発生しますので、搬入口の拡充はかなり必須なのかなと思います。

以上です。

○会長

ありがとうございました。やはり、バックヤードを充実してほしいということですね。特にこういうまちなかですから、搬入口はいろいろと考えなければいけないことがあると思いますし、今回ギャラリーも併設されるということなので、それもどのように搬入するかという話も絡んでくると思いますので、その辺りも御検討いただければと思います。

それでは、ほかの委員はいかがでしょう。F委員、お願ひいたします。

○F委員

今、B委員からもお話があったのですけれども、自分でもプレーしていますので、現在も恐怖と戦いながら演奏する立場からすると、池袋にある東京芸術劇場は、あそこの裏に入られる方はなかなかいらっしゃらないと思うのですけれども、舞台面よりもかなり広いスペースがあります。幅が7、8メートルあるような通路が上下の間をずうっと回っていて、その周りに楽屋が並んでいて、真ん中にはガラス張りでちょっと緑が見えるスペースがあつたりして、あそこのホールで演奏会があるときは、演奏する立場からすると、すごく癒されたり、休憩中にすごく休まるので、そういうのがあったら理想なのですけれども、実際こここの場所でやるには、やはり敷地の制約と予算の制約とがありますので、いろいろなことをいっぱいやりたいと思うのですけれども、最大限にしたときに、どれぐらいのことができるかなというリミットみたいなものも、いろいろ考える上では、もし材料がいただとちょっとありがたいと思います。

例えば、ここの大ホールでしたら、現在のキャパは1、300ぐらいだと思うのですけれども、今のグリーンホールはバックヤードも少し狭かったりすると思うので、そういうものを加味して建てているときに、キャパがどれくらいのものを造れるのかとか、やはり搬入口は1階に必要だと思うので、大型のトラックを入れる場合に、オープンスペースを1階に取って、いろいろな人が出入りするスペースを取るとなると、例えばレストランですとかそういうものを現実的に入れられるのかというところのこの敷地の中での制約というか、リミットというか、そういうのもちょっと分かると、いろいろなアイデア、さらに工夫していろいろやらなければいけないのだなとか、階層を変えていかなければいけないのだなとか、いろいろなことが分かってくる。

あとは、高さとか下とかがどれくらいのものが造れるのか。今現状はホールにお客さんとしてくる人の駐車スペースがないと思うので、例えば地下3階まで造れるのだったら、駐車が2階スペースに造れると、さらに集客にもつながるようなスペースがつくれるのか

とか、そういう制約的なことちょっと知りたい。

あとレストランは、ちょっと具体的な話になってしまふとあれなのですけれども、調布のにぎわいの里に時々行ったりするのですが、地物の野菜とかちょっと購入して自分で料理したこともあるのです。非常においしい野菜もありますし、もし何かレストランとかを作られるのであれば、もちろんはやりの優れたシェフの方をお呼びしてというのもいいのですけれども、地産地消につながるような、地元の農協になるのですか、その辺の仕組みが分からぬのですけれども、地元の農業のほうとかとも、毎日グリーンホールに来る新鮮な野菜が入るみたいな、ほかにもそういう施設はあると思うのですけれども、そういうものもちょっと考えていくといいなと思ったり。

あとは、例えばヨーロッパのホールに行ったりすると、ホールにどんとすごい絵があつたりして、我々は音楽会を聴きに行くともちろん耳を使うのですけれども、会場に入るまでに視覚からも芸術的なインスピレーションを受けたりするので、そういう機能、例えば、常設で絵を飾っていただくのもいいのですけれども、ホールと美術館的な機能を併設できるのかどうか。文化芸術の発信の場所としては、人が集まって、ソフト的なものがいろいろあったほうがいいと思うので、もちろん音楽や演劇を舞台上でやるもの大事ですが、音楽を聴きに来たのだけれども、絵も見られるとかそういうものがあると、さらに文化芸術に触れ合っていく機会が増えるのではないかなどちょっと思ったりしております。

ちょっとまとまりがないのですけれども、意見として。

○会長

ありがとうございます。敷地も限られているので、具体的にどのくらいのことができるのかがもう少し見えてくるとよいということだと思います。レストランについては、駅前の立地なので、ほかにも飲食店はかなり多数ある中で、ここにレストランをどのように作るのかは、いろいろ考えていかなければいけないと思います。ホールの利用者だけが使うレストランではなくて、外からも入れるし、ホールの利用者も使うというものでないと、なかなか商業的に成立しにくいのだろうと思います。その辺りも考えると、どのように設置するのか、しないのかを考える必要もあると思います。

それでは、C委員、お願ひいたします。

○C委員

日本中をツアーや公演で回っていたりすると、すごくすてきな建築で、建てたときはよかったですのだけれども、それ以降のメンテのお金がなくて、すばらしいすてきな絹の赤い椅子

子なのだけれども、ぼろぼろになっているというのを具体的に見たこととかもたくさんあるのです。なので、メンテが高額にならないような知恵を使ったデザインみたいなこととかも、お考えになつたらいいのではないかというのが1つと。

もう一つが、一番重要だと思うのですけれども、幾らホールの建築がすてきでも、事業費を伴わないと生きているホールにならない、生きている劇場にならないことがあるので、残念な劇場にならないように、事業費をきちんと確保してほしいというのが、建て替えるのであれば、一番それが成功への確かな道なのではないかということは申し上げたいと思います。

○会長 ありがとうございます。事業費もしっかりと考えていただければということだと思います。

ほかに御意見ある委員はいらっしゃいますか。それでは、E委員、お願ひいたします。

○E 委員

せんがわ劇場に先月出演した際にスタッフの方がおっしゃっていたのが、せんがわ劇場は階段状に椅子、客席があって、その椅子、階段状の客席を片づけて、ここのホールみたいにフロアにできたりとかもするのですが、いろいろな設備を置く倉庫というのがすごく小さくて、結局、スタッフの方が作業するような場所に無理やり詰め込んで、通路に無理やり置いてという状態になっています。そういう実際に使う方の目線で設計をされないと、すごく立派な見た目の建築でも、中身の機能で必要なものが足りていなかつたり、スペースがというのがあると、すごくもったいないなと思います。

そういう意味で、それを避けるためにどうすればいいかと考えてみたのですが、やはりある程度方針が具体的になってくる少し前に、せんがわ劇場の実際のスタッフの方に、こういう方針で考えていますが、足りているものはあるでしょうか、足りていないものはあるでしょうかと相談したりとか、実際のパフォーマーの方に相談してみたり、特にスタッフの方、実際にそのホールを運営している方に意見を伺うタイミングがどこかしらであったほうが、これが足りないと後からなることはないのかなと思いました。

なので、現状、ここの資料ではトイレとかは出てきていますが、そういう倉庫とか、実際に劇場として、ホールとして必要なものがまだ具体的には見えてきていないかなと思うので、そういったところがもう少し、箇条書きでもいいので見えてくると、具体的に検討できるかなと思いました。

次に、小ホールについてなのですが、大ホールはイメージできると思うのですが、小ホ

ールは、さっき言ったような多目的なホールになるのかなという印象です。現状だと、飲食があるようなイベントがされていたりとか、祝賀会ではないですけれども、そういう用途でグリーンホールのここの小ホールが使われているという認識です。

なので、そもそも固定の椅子席にするのかどうかとか、あとは、現状、椅子がない状態で、簡易的な椅子を使っていると思うのですが、その椅子をしまう倉庫が必要だったりとか、そういう小ホールの在り方というかそういったものは、大ホールはまだイメージできるかなと思うのですが、小ホールはどういった方針で用途はこうというのは、よく考えないといけないかなと思います。

あと、個人的なパフォーマー目線としては、調布市は音を出して練習できる場所というのがすごく少なくて、たづくりも4部屋か5部屋ぐらいしかなかったと思うのですけれども、なので、私とかは府中に行ったり三鷹に行って練習してという、結局、調布市では完結できずにほかの市に行ったりしているのですが、すごく少ない印象です。

もう少し大人数の練習場所という意味では、この小ホールがうまく使える可能性はあるかなと思ったりとかもしています。なので、こういう小ホールの在り方というのは、多目的な用途にするのであれば、飲食ありなのかなしなのかとも含めて、具体的にこういう用途をイメージしていますという、それも箇条書きでもいいので、抽象的ではなくもう少し具体的な用途が挙げられるといいのかなと思いました。

○会長

ありがとうございました。倉庫なども、今回、基本計画のところでどこまで詳細に書くかというのはあるかもしれません、そういうバックヤードもきちんと考えていくということと、小ホールをどのように考えるかというお話ですね。特に練習などにも利用できるような在り方が考えられるのではないか、という御意見と思います。

それでは、I 委員、お願ひいたします。

○ I 委員

まず1つ目が、先ほどから多目的ホールという呼び名がどうかというお話がありましたけれども、最近、多機能ホールと呼ぶことがよくあります。多目的ホールというのが誤解を招きやすいので、そう呼んでいるだけです。でも、多機能ホールといったほうが、多目的ホールは無目的というので批判を受けた時代があるので、少し呼び方も矛先を変えてもいいのかなと思いました。

それから、大ホールの客席数ですが、先ほどのワークショップなどを見ても、1、300以

上欲しいというような御意見がたくさんあるようですが、さすがに、この敷地は無尽蔵に広いわけではなくて、裏の道路から広場までしかないので。少なくとも新しいホールを造るとなると、客席は前後感覚をもうちょっと広くしたいとか、幅ももう少しゆとりがあったほうがいいと考えていくと、同じ1、300席でも一回りぐっと大きくなっていくのです。

それが1つと、それから舞台、今、18メーター掛ける14メーター、これというのは、我々は、10間掛ける8間、8間弱しかないので。これは、B委員のほうが専門ですけれども、決して広くはない。奥行きがもうちょっとないとオペラにはならないよと言われるかもしれない。となってくると、それも大きくなってしまうと、この敷地の中からはみ出しかもしれない。その中で、どの数字を選んでいくかというのが重要になってくる。少なくとも改修では、舞台が大きくなっていくのだったら、もう建て替えない限り舞台は大きくはならないのです。というのが大きなポイントだろうと思います。

それから、楽屋5室、この大きさにもよるのですけれども、決して多くはないです。ただし、これを無尽蔵に増やしていくのも、さすがに楽屋というのは開かれたスペースではなくて、ホールを使う出演者が入るところなので、無尽蔵に増やせないとなってくると、今、アイデアで出ている、練習室だとかリハーサル室だとかそういうところもエキストラの楽屋として使えるような動線を確保することで、折り合いをつけていくというのが重要な気がなと思いました。

それから、駐車場。ここで考えていくのだったら、どう考えても駐車場は地下だらうと思います。当然、駐車場というのは法令で定められた附置義務というので台数が決められてくるのですけれども、地下に造る、掘れば掘るだけお金がどんどん上がっていくので、ここも無尽蔵には増やせない。附置義務というのはそんなに潤沢な台数を法的に確保しないと言われるわけではないので、ホールを運営する、あるいは関係者用の台数ぐらいしかないのですね。となってくると、観客の利用に供する台数というのは限られてくるだらうな思います。

ただ、こういう都市部なので、周りにどれだけ駐車場があるかということも一体的に考えていくべきだらうなと。土日であれば、ひょっとすると市役所の駐車場も使えるかもしれないということも含めて、いろいろな可能性を考えたほうがいいだらうと思いました。

それから、地下に駐車場があって、1階は先ほどB委員からもあったように搬入口がある。それから広場からの連携があるとなってくると、ホールみたいな施設が入るスペース

はきっとないだろうなと。そうなってくると2階以上にホールが入っていく。それも、1、300近くも入れるとなったら、どう考えたって3層か4層、それくらいの客席のボリュームがある。先ほど要望書の中には、美術の方も、ギャラリーを作れないかと。また一層上がっていくということも踏まえて、全体のボリュームを考えていかなければいけないのでないかなと思いました。

それから、小ホールに関しては、今ちょうど小ホールにいるので、これでいいのかどうかということが大きな判断材料になってくるだろう。形だけからいうと、プロセニアム形式の舞台かもしれないのですけれども、これは決してプロセニアムとは呼べないプロセニアムですね。ほぼワンボックスでエンドステージという程度です。これをもう少しシンプル化していくのか、それとも、ちゃんとプロセニアムにしていくのかによっては、さっきのパズルがもっと複雑になっていくということではないかなと思いました。

○会長

ありがとうございました。かなり建築的な視点からの御意見であったと思います。そういう意味では、敷地の面積が限られているので、その中でどういう機能を選んでいくかということと、場合によっては、かなりいろいろな諸室を兼用する考え方を取り入れていく必要がある、という御意見だったと思います。ありがとうございました。

それでは、H委員、いかがですか。

○H委員

I委員のお話はよく理解できます。予算や制限があって、その中でどれを一番重視してことを進めていくかという方向性です。基本的に枠は決まっているのですよね。その中で何をどう充実させていくか。今はいろいろな立場の方の御意見を伺って、できれば全部組み入れると良いでしようが。おそらくそうはいかない。

そこで、事務局にお願いしたいのは、「ザ・リアル」はどの辺なのかというのを提示していただきたい。その方が議論が具体化すると思うのです。この面積で、この音響で、などもろもろの設備で、何階建てにするとかなるとか、その場合の客席はどの程度になるとか。そういう「ザ・リアル」が欲しいなと。取りあえず机上のものでいいので、そういうものがあると、もう少し話がかみ合ってくのではないかなど。それぞれの分野で要望することはたくさんあるでしょう。要望するけれども、結局、具体に落とすとこの辺だというのが見えると、イメージがはっきりつかめるという気がします。

それと、私は文化庁文化の文化審議会文化経済部会の臨時委員（第4期まで）をしてい

たのですが、そこでは事例研究みたいな形で、どこか先進的に活動している方に来てもらって、このようにして、こう工夫しましたというようなことをよくやるのです。そういう事例でも聞いたら、またイメージが具体化するのではないかなと思います。

つけくわえますと、それは文化経済・国際課がリードした会議で、文化芸術活動と経済もかけあわせた展開（アートエコシステム）を議論したときに、文化事業がうまく経済に絡んで活気づいている成功事例をもつ担当者、団体、自治体に来ていただいて、レクチャーというかそれを聞く機会というのがあったので、こういうのもあってもいいのかなと。先進例というか、モデルというか、考える材料にするというか、そんなことを今思いました。

○会長

ありがとうございます。先進的な事例は、少なくとも、この検討会議にどなたかゲスト的に呼べるかはともかくとして、資料としてはいろいろな事例をさらに加えていけるといいと思います。

あと、先ほどの話は、主に面積というか、この敷地の中に大きさとして入るのかという話を、もう少しリアルなものにということと思うのですけれども、一方では、昨今の建設費の高騰というのもありますので、お金の話もかなりリアルです。ただ、そこはもう少し先に行かないと見えてこない部分もあるとは思うのですが、この検討会議では、ある程度は理想的な可能性を考えるというところで話を進めていく部分も、どうしても出てしまうと思っております。ありがとうございました。

それでは、D委員、お願ひします。

○D委員

この資料9の5ページ目、反映を目指す主な市民の意見というところで、「文化芸術に詳しい専門家を置き、様々な相談や催物を企画する」とあります。加えて、今後の活用（案）のところで、施設利用サービスだけでなく、「相談や催物の企画について相談対応」と書いてあるのですけれども、これは今までの議論とはちょっと違った視点です。今まではどちらかというと施設、ハードに関する御意見が多かったかと思うのですけれども、これは市民に対しての公共的な文化サービスの1つという視点が必要であると読み取れます。今の言葉で言うと、アーツカウンシル機能ということです。単純に民間事業者の方が調布に来て施設運営を行っても、この市民の意見を満たすような果たして人材でおられるのか否かということです。この点は、すごく見極めなくてはいけない。これはハードを考えるときに、ソフトをどうしていくのか、それから市民の文化芸術活動をもっと発展させてい

くためには、どのような専門性とどのような人が必要なのかということを一緒に考えていかなければ、新たなグリーンホールの主な構成と検討の方向性の深いところに入りいかないという重要な点です。これは市民からの質量とともに検討してほしいという点で、質的な意見に相当すると思うので、とても興味深く、これから調布市にとって非常に重要な論点になると思いましたので指摘をさせていただきました。

○会長

ありがとうございます。その辺、このような資料として出しているので、そういうアーツカウンシル的な人を置くみたいなことも想定されているということだと思いますし、一方で、ハードという面で考えても、そういう人がいるかいないかで、ハードの作り方も変わってくるとは思いますので、その辺りも次回に向けて御検討いただければと思います。ありがとうございました。

それでは、B委員。

○B委員

すみません。次回からより具体的に機能について話していくことになるかと思いますので、ちょっとお願いといいますか、私の希望といいますか、1ページに大ホールの音響性能、設備の向上というのがございまして、これは私も、それから前回もF委員も御発言ありましたけれども、当然、ここは向上するしかないぐらいのポジションに今おります。

ここで、私も音楽家ではありますし、F委員もそうだと思いますが、音響の専門家ではありませんので、どなたか音響の専門家に、向上といつても様々な形がありますので、そこに関して現状がどうで、どういったことが可能性であると。多目的は無目的という委員のご意見もございましたが、まさにその通りで、もし複数の音響目的を持つホールになるのであれば、多機能、とにかく可変の音響、たづくりもございますが、パネルをひっくり返す形や、いろいろなものを置いたり、吸音盤を設置したり外したり、そういういろいろな方法がありますので、それについて手法をしっかりとまとめていただいて、これは演劇の方もいらっしゃいますしいろいろな目的があって、バッハ・コレギウム・ジャパンのバッハ音楽の中でも必要な音響は本当に様々で、オルガンと合唱とオーケストラ、全然違いますので、どの辺をコアにしていくのかというところは、音響の専門家の御意見なしには進められないのかなと思います。

○会長

ありがとうございます。音響についてということですね。基本計画という形でどこまで

その辺りが入るかということはありますが、最終的な実際の設計においては、そういう音響の専門家の方も当然入ってくると思いますので、そういう中ですばらしい音響のホールがぜひ実現できればということだと思います。ありがとうございます。

一通り御意見をいただいたのでよろしいですかね。時間も大分過ぎていますので。

それでは、様々な御意見を各委員からいただきまして、本当にありがとうございました。この会議としては、幾つかいろいろ御意見がありました。特にバックヤードについて充実するような考え方をぜひ取り入れてほしいとか、どこまで、どうやっていくかは難しいところもあるかもしれません、もう一段、敷地の条件に合わせた考え方のようなものを示していただけだと、もう少し具体的な意見が話せるのではないかというようなこともあつたと思います。その辺りを含めて、次回に向けて御検討いただければと思います。

それでは、最後に次第の(4)の今後の進め方について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

資料につきまして資料10をお願いいたします。

こちらは令和7年度の専門家検討会議開催予定でございます。

次回の第4回目につきましては、11月から12月を予定しております。本日、様々な御意見、御議論いただきました。第4回目につきましては、施設機能の確認だとか検討など、より具体的に進めることを予定しております。

4回目以降の会議につきましても、今年度、定期的に実施していくこととなります。ホールの基本構想、基本計画（案）の取りまとめまで、会議運営に皆様、御協力をお願いします。

説明は以上となります。

○会長

それでは、ただいまの御説明について御質問などありますでしょうか。よろしいですかね。それでは、最後に連絡事項について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

改めてでありますが、本日長時間にわたり御議論いただきまして誠にありがとうございます。

最後に事務局から2点ございます。

まず1点目につきましては、配付資料について、委員の皆様におきまして、本日お持ち

帰りにならない方は、事務局でお預かりいたしますので、そのまま机の上に置いてお帰りください。

最後に2点目、第4回目の専門家検討会議につきましては、事務局から候補日を調整させていただきます。全委員の御予定を確認した後に決定できればと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○会長

ありがとうございました。今日は長時間、御議論いただきまして、大変ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして第3回新たなグリーンホールの整備に向けた専門家検討会議を閉会といたします。どうもありがとうございました。

——了——